

曹洞宗の公式見解に対する私の所見

曹洞禅ネット」の寺院専用ページに掲載された情報です。

葬儀・法要執行に関してのお願い（菩提寺について）

令和元年 11 月 12 日付にて、曹洞宗審事院より曹洞宗宗務庁へ、曹洞宗懲戒規程第 12 条第 1 号(正当な理由がないのに、他の檀徒に対し引導師若しくは焼香師となり、または戒名その他の諡号を授与した者)に関連する申告が急増しており、その対応を要請する旨の通知がありました。

この件は、インターネットを利用した定額での僧侶派遣や、葬儀社から直接僧侶を紹介するサービスが行われ、派遣された僧侶が菩提寺に配慮することなく喪儀や法要を執行することが一因と考えられます。

菩提寺の有無の確認不足、あるいは菩提寺があることを認識していながら宗侶同士の連絡を取らず、葬儀社や施主に任せきりとなる状態は、このまま放置すれば同様の事件を招きかねません。

また、既に菩提寺で授戒を受けている者に対し、他の僧侶が喪儀を行いさらに戒名を授けることは、授戒を重んじる曹洞宗といたしましては由々しき問題といえます。

今後、同様の事案が引き起こされることを防ぐため、現職研修会、寺族研修会をはじめ各種研修会にて教育及び指導に努める所存であります。

宗侶・寺族の皆様におかれましては、他宗はもちろんのこと、他寺院の檀信徒の葬儀等を勝手に引き受け執行することがないように徹底されますよう、また檀信徒の方々に對して「菩提寺」の存在と役割をあらためて教導されますようお願いいたします。

一つ言えることはお寺も宗門も完全に瓦解が始まったということです。ここからもしかすると早いかもしれません。一日葬儀と直葬 急増中です。仏祖で在家や死者に授戒をせよといった人はいません。没後作僧(死者の在家得度)はあくまで方便であって本来のかたちではまったくありません。ましてや尊敬できる導師(僧侶)からの授戒でなければ意味はありません。ですから私は檀家制から信徒制へと転換させたのです。本来は住職のことを尊敬できない人に授戒(葬儀)などできません。

審事院の対応は基本的には場当たりのです。通過儀礼です。ほぼ意味はなしません。なぜなら日本は資本主義経済でありいかなる理由があれ顧客獲得のための競争は原則であります。宗教や経済の自由性は法の下での平等で認められております。ましてや今の時代はグローバル経済といわれ国際的競争力が問われているのです。保護主義経済だけで太刀打ちできるようなご時世ではありません。そのために世の人々はみな必死になって働き勉強をし

て競争に耐えているのです。切磋琢磨をして得た、収益を我々は浄財としていただいているのです。なぜそれがわからないのでしょうか。

因みに私共のお寺では他宗、他寺院様の檀徒の葬儀法事を引き受けることはしていません。ただし、離檀をされた方、お互いの同意があった場合はこの限りではありません。逆に当院では檀家制を廃止しているため当院の信徒がどこで葬儀や法事をされようとお構いなしです。信徒の身柄を拘束することは拉致的行為であり前近代的です。あくまでも当院は「来る者は拒まず、去る者は追わず。」の姿勢を貫いています。すべて自己責任として対応しております。それだけに寺院の独立性も保証されているのです。

宗派が弱体化していることも上層部はわかっています

宗務庁はしばらくは宗費の値上げでもたせるようですが派内が混乱してその対応に苦慮してきます。

最後は一蓮托生 共倒れをしかねません。

檀家制の崩壊は宗門の崩壊です。新たな組織づくりが急務にはなってきます。そこが出来たところにことは収斂してくると思います。

一般の人にもいびつな世界であることが気付かれていますのでいずれは構造改革しか道はなくなると思います。現状維持のところはほぼ全滅すると見えます。

私も個人的には構造改革の来年は仕上げの一年にしたいと思案中です。

地元旧檀家も家族葬化してきました。地域コミュニティーは崩壊してきております。今の時代は気が合わない人と無理をしてまでもお付き合いをしたい人などいません。私もよからぬ噂話を掻き立てられてはいつも迷惑しております。私のことが気に食わないというだけで足を引っ張っている人もいます。そこにロジックや哲学はありません。これだけ勉強をし修行をしてもです。次の代の人には私がしてきたような苦勞はさせたくないと思底思います。負の遺産を次世代に引き継ぎたくない事情はわかりますがこれも自業自得というものです。私は最近はいつ死んでも悔いはない、いい人生だったと言えるようになりました。自らがやるべきことがわかったんだと思います。自らの役割に忠実に、使命感を持ってただ生きていただけです。これからの日本はおそらく首都圏、名古屋圏、関西圏以外の地域は衰退していきます。日本全体の地盤沈下は避けられません。少なくともお寺社会 村社会は今時代の流れには噛み合いません。しかしお寺の瓦解の後の未来は素晴らしいものになってゆくものと信じます。

この地域も世代交代化して新たな時代を迎えることになります。私も次世代の人材育成と人物の構築に余念なく勤めてゆく所存です。支援者の皆さまの更なる力の結集をお願い申し上げます。

いよいよ全体が動き出す時期です。頑張りましょう。

令和元年 12月 25日

見性院住職